

今月第15号は中部名古屋クラブの相馬 静香ワイズにご登壇いただきます。



メネット42年間、メンバー16年間の幸せに感謝
“交流こそEMCの神髄！”

中部名古屋クラブ
相馬 静香ワイズ

1. はじめに

私はワイズにメンズクラブにおいて、意識してEMC活動を行ったという感覚は平素から感じていません。むしろ、ワイズにおける例会、部会、西日本区大会、アジア南太平洋地域大会、国際大会など多くの機会に積極的に参加していますので、そういった中ではいつも交流の意義を感じています。それが引いてはEMC活動に繋がればよいのではないかと思います。そこで不肖私が、メネット42年間、メンバー16年間を通じて「交流」に傾倒してきた今までの道程を私なりに振り返ってみたいと思います。

2. ワイズと共に歩んできた道程

私は当初、夫相馬康人が名古屋ワイズメンズクラブに入会したことから、自動的にそのメネットとして関わりました。夫と一緒に、戦後名古屋YMCAが借用していた名古屋桜山教会に通っているうちに、1961年にその名古屋クラブに導かれたのがきっかけでした。

夫は名古屋学院中学・高校の生物科教師であり、同校のスキー部監督や宗教部長、教会の役員などを兼務し、YMCAでは23年間常議員を務めていた上でのワイズ活動でした。私はその間の42年間はメネットという立場でしたが、家庭を開放した数学教師という立場でYMCAと関わっていましたので、今思うと随分自由に過ごしていたように思います。

そういったワイズとの関係で知り合った方々をワイズにお誘いしたのも懐かしい思い出です。当時同校校長であられた同じ名古屋クラブの西村清ワイズもそのお一人です。名古屋クラブで中部部長を務めた夫とは42年間に亘って、例会をはじめ多くのイベントに出かけました。子どもたちも自然と、YMCAやワイズに関わってきました。長男はYMCAのメンバー、予備校、武蔵野YMCAのユースリーダーを経験した後、東京YMCAに奉職し、東京サンライズクラブの連絡主事を務めました(チャーターメンバー)。また長女は、YMCAのメンバー、ユースリーダー、を経験した後、YMCAの職員を務めたのも自然な成り行きだったと思います。一方、その間10年余り私はYMCAの進学部数学の非常勤講師や日本語学院生徒のボランティア・チューターを務めました。家庭でも“ワイ・ワイ”と、一家をあげてYMCA、ワイズにどっぷりの、まさに森田恵三ワイズ将来構想特別委員長がいつもおっしゃっておられる“ワイズ温泉”にどっぷりと浸かってきた人生です。なかでも「東山荘年末年始家族パーティー」、Yやクラブ例会の「クリスマス家族パーティー」は特別な思い出です。

当時クラブでは「クラブ会長夫人がメネット会長」という習慣を守っていましたので、就学前後の子ども達を連れての例会出席でした。

3. ワイズメネットからワイズメンに

メネットの時代にメネット会長を2度務めました。夫が2003年に天に召された後はワイズメネットからワイズメンに転じて、クラブ会長を1度務めました。しかし、メネット期間が長かった私は、メネットさんたちとの交流は私の“交流“の原点でした。ワイズメンになってもその姿勢は変わることなく大切にしてきました。総主事や異なった職種のメンバーのご夫人方や先輩方から多くのことを学び得たのも第4土曜日のメネット会でした。年間プログラムを作成して、刺繍や(内外多くのメネット方に差し上げ続けている)ハンカチポーチづくり。毎年メン合同4月例会には留学生やゲストスピーカーを招き、持ち寄り料理で「メネットナイト」を開催しました。メネット宅での「女正月」。ラルゴ運転で妻籠訪問などは忘れ得ぬ日帰り旅行でした。「仲良し三婆」健在の楽しい良き時代の名古屋メネット会でした。

夫が召天後、敬愛する故長井潤ワイズが「メンバーになって、今までのように生き活きていたら、天の先生が喜ぶよ」と。若き平野実郎ワイズも「そうだ、そうだ。」と同調。私たち夫婦にとって中田武先生(1952年当時小原国芳氏や丹下健三氏がご友人で、名城大学教授)は名古屋桜山教会、後に名古屋ワイズメンズクラブに導いてくださった一番の恩師であり、YMCAとも関わるようになったので、私は先生のご遺志を継いでいきたいと励んでおります。そういった原点はやはり名古屋クラブの皆さんやメネット会の皆さんです。名古屋クラブを通じて多くの方々とのYやY'sの協働や交流の喜び・恵みに与っています。

4. 多くの交流の中で得た宝物

1975年家族で参加した熱海国際大会では、鈴木謙介元国際会長(後に夫が母校の教師だと気付かれ、優しさ感謝)、また和歌山紀の川クラブ・名古屋クラブとトライアングルDBCを締結した熱海グローリークラブの竹内敏朗元国際会長と再会したり、ミッドイヤーミーティング後、竹内会長が自家用マイクロバスでお連れになったウッドさん(ウルグアイ)やモレルご夫妻(オーストラリア)の我が家でのホームステイと、「中部部長(夫)主催歓迎会」などは忘れ得ぬ思い出です。

1988年2300名参加の「京都国際大会」でのHCC竹内敏朗氏のお姿も思い出されます。ミネアポリスNWクラブとソウル聖岩クラブとのトライアングルIBCを締結したソウル国際大会。シンガポール、京都、ミネアポリス、十勝、一人旅のインド・コーチン、台湾・宜蘭、マニラ、台北、タイ・チェンマイ等国際・地域大会での再会・交流。数か国の歴代Y's役員方との再会も嬉しく参加しました。1975年以降のクリスマスカードに、1992年以降はY・Y's・名古屋学院・教会・家族の事の手紙とハガキ大編集写真を添え、内外各50通(近年17か国。過去、教会・学院関係を含む78人位ホームステイ)送っています。

1970年代の「ロス・セミナー」や1975年再開した「名古屋YソウルY高校生セミナー」(夫が2回団長、子ども達団員)はワイズ家庭にホームステイ。ロサンゼルスのご両親のお悔みには長男と訪米し、1978年以降交流が続いています。2007年名古屋クラブは創立60周年記念事業として名古屋YMCAと再開した「日韓ユース(平和)セミナー」(長井ワイズ提唱)を支援し、ソウルYMCAでは以前と同じく聖岩IBCに支えられ喜ばしくも、1月18日敬愛なる白宇鉉初代会長(4回ホームステイ)のご召天の報を受け、中村総主事と深谷会長の献花西村・川口両ワイズが参列できたものの、悲しい両クラブ一同でした。

5. 最後に

このように健康が与えられ、58年間(メネット42年間、ワイズメン転向してからは16年

間100%出席を守っています)ワイズの皆様と親しく交流・楽しく体験・学ぶことができ、YMCAを支え、その幸せを主と皆様に心から感謝しております。私自身はEMC活動に貢献してきたという実感はあまりないのですが、特に「ワイズは交流」との感覚はずっと持っております。78人余のホーム・ステイを受け入れた夫の交流委員を受け継ぎ、西村清委員長の下で活動し、「交流事業実施報告書」も度々提出しております。私自身は交流の中でワイズ内外の皆様との接触で、無意識の内に EMC 活動をしていたように思います。各大会への道中や色々の場面で私に関心を示して下さい下さった方々に、YMCA やワイズメンズクラブについてお伝えするのも嬉しいひと時です。このまま自然体で交流の中で仲間が増えていけばこの上ない幸せです。これからも宜しくお願い致します。ご精読いただき、誠にありがとうございます。
(中部名古屋クラブ元会長、クラブ交流委員)

<2016年台湾での国際大会で内外のワイズとの交流の一コマ>



左から2枚は台北クラブの親子ワイズとご一緒。右は熊本にしクラブの水元ワイズも加わって。



←大会後に再会出来て、最後となった竹内敏朗元国際会長(熱海グローリー)と感激の握手！(2015年7月、京都でのアジア地域大会にて)



ワイズの交流、楽しきかな！ここには握手とスマイルさえあれば、スマホもポケットも必要ではありません！交流のないところに EMC の芽は育ちません。交流の中にこそあなたの個性を活かした EMC の可能性を見つけ出して下さい！(静香流)